

## C. 参考文献

- 石坂隆(1991)：黄砂の性状と発生源地の推定、名古屋大学水圏科学研究所編、大気水圏の科学 黄砂、古今書院：東京、pp. 109-123
- 上田豊、岩田修二(1991)：世界の風送塵発現域、名古屋大学水圏科学研究所編、大気水圏の科学 黄砂、古今書院：東京、pp. 3-8
- 鷓野伊津志(2003)：領域気象モデルと黄砂輸送モデルについて、平成 14 年度環境省委託、黄砂問題調査検討事業報告書、海外環境協力センター、pp. 121-130
- 金森悟、金森暢子、西川雅高、溝口次夫(1991)：黄砂の化学像、名古屋大学水圏科学研究所編、大気水圏の科学 黄砂、古今書院：東京、pp. 124-156
- 韓国気象部(2002)：韓国気象部気象研究所要覧(黄砂)、韓国語
- 気象庁(2002)：地上気象観測指針、第 11 章大気現象の観測、pp. 98-122
- 気象庁(2003a)：各地の年間黄砂日数 視程 10km 未満(1967～2002 年)、平成 14 年度環境省委託、黄砂問題調査検討事業報告書、海外環境協力センター、pp. 178
- 気象庁(2003b)：日本に飛来する黄砂と東アジアの大気の流れとの関連、平成 14 年度環境省委託、黄砂問題調査検討事業報告書、海外環境協力センター、pp. 179-181
- 気象庁(2003c)：平成 16 年 1 月から黄砂に関する情報を発表します、平成 15 年 11 月 20 日付け報道発表資料
- 国立環境研究所(2002)：環境儀 No.8、黄砂研究最前線、科学的観測手法で黄砂の流れを遡る、pp. 1-16
- 新生網(2002)：沙塵天気対人体的危害、2002 年 5 月 28 日、  
<http://back.xinsheng.net/xs/articles/gb/2002/5/28/15123.htm>、中国語
- 人民網日本語版(2002)：国家環境保護総局、北京地区の黄砂対策を発表、2002 年 1 月 26 日、[http://j.people.com.cn/2002/01/26/jp20020126\\_13681.html](http://j.people.com.cn/2002/01/26/jp20020126_13681.html)
- 人民網日本語版(2002)：朱鎔基総理、黄砂対策で国連との協力を希望、2002 年 4 月 25 日、[http://j.people.com.cn/2002/04/25/jp20020425\\_16560.html](http://j.people.com.cn/2002/04/25/jp20020425_16560.html)
- 全浩(2003)：中国の黄砂への取り組み、日中環境協力情報交流会事業報告書<資料編>、海外環境協力センター、pp. 49-52.
- 石廣玉(1991)：黄砂の大陸 - 中国、名古屋大学水圏科学研究所編、大気水圏の科学 黄砂、古今書院：東京、pp. 9-19
- チャイナネット(2002)：黄砂の抑制に各国からの環境協力が拡大、2002 年 4 月 25 日、  
<http://www.china.com.cn/japanese/30175.htm>
- チャイナネット(2003a)：砂あらしを四日間も繰り上げて予報、中国の科学者が新たなシミュレーションシステムを開発、2003 年 2 月 10 日、  
<http://www.china.com.cn/japanese/59226.htm>
- チャイナネット(2003b)：中韓が黄砂の共同観測ネットワークをスタート、2003 年 4 月 23 日、<http://www.china.com.cn/japanese/69525.htm>
- チャイナネット(2003c)：北京・天津に吹いてくる砂嵐の発源地域の整備が 25% 完成、2003 年 9 月 25 日、<http://www.china.com.cn/japanese/85967.htm>

- 鶴田治雄(1991)：黄砂と降水の化学組成、名古屋大学水圏科学研究所編、大気水圏の科学 黄砂、古今書院：東京、pp. 268-279
- 成瀬敏郎(1993)：東アジアにおける最終間氷期以降の広域風成塵の堆積量変化、地形、14(3)、pp. 265-277
- 成瀬敏郎(1996)：風成塵が記録する気候変動と文明、最終氷期における日本列島のダスト・フラックス変化と古環境、平成 6・7 年度科学研究費補助金(一般研究 C)研究成果報告書、pp. 22-31
- 西川雅高(2003)：黄砂モニタリング手法の紹介、平成 14 年度環境省委託、黄砂問題調査検討事業報告書、海外環境協力センター、pp. 227-251
- ブラウン,レスターR.(2003)：前進する砂漠との戦いに敗れつつある中国、Eco-economy- update, June 2003,  
<http://www.worldwatch-japan.org/NEWS/ecoeconomyupdate2003-6.html>
- 村山信彦(1991)：黄砂発生の仕組み、名古屋大学水圏科学研究所編、大気水圏の科学 黄砂、古今書院：東京、pp. 20-36
- 吉野正敏(2002)：中国の砂塵あらしと日本の黄砂、災害の研究、33、pp. 55-70
- Baek G.-S. (2003) Introduction to Korea's DSS (Yellow Sand) response measures, 中国北西部生態系保全に関する第 3 回専門家会合報告書、海外環境協力センター、pp.57-61.
- Earth Probe TOMS (2001) *Asian dust clouds*, Aerosol Index on April 13 2001,  
<http://www.lakepowell.net/asiandust2.htm>
- Lu Q. and Yang Y. (2001) 20 世紀下半叶中国西北地区主要沙塵暴事件縦覧、全球沙塵暴警世録、中国環境科学出版社、北京、pp. 235-243、中国語
- Merrill, J. T., Uematsu, M. and Bleck, R. (1989) Meteorological analysis of long range transport of mineral aerosols over the North Pacific. *J. Meteorological Research*, 94(D6), pp. 8584-8598
- Oyundari N.-Y. (2003) Current situation and measures against DSS in Mongolia, 中国北西部生態系保全に関する第 3 回専門家会合報告書、海外環境協力センター、pp.63-73.
- Yamada Y., Mikami M. and Nagashima H. (2002) Dust particle measuring system for streamwise dust flux, *J. Arid Land Studies*, 11(4), pp. 229-234.